

平成27年 2月 定例会

◆(淵上陽一君)3番目の質問は、山鹿市の振興に向けた熊本都市圏とのアクセスの強化についてであります。

私は、平成 25 年2月県議会において、県北地域の振興に関し、県北の横軸連携によるソフトとハード両面からの取り組みについて質問いたしました。それに対し、知事より、重要なインフラ整備として「国道 325 号の4車線化に重点的に取り組んでまいります。あわせて、観光客の動向や交通状況、これまでの道路整備の効果などを踏まえながら、県北地域の幹線道路整備のあり方について検討してまいります。」との答弁をいただきました。

昨年から、県北広域本部において、九州中部大回廊構想の旗印を掲げ、有明、山鹿、菊池、阿蘇をつなぎ、結ぶ、懐の深い魅力ある地域をつくり出すために、さまざまな取り組みが始められたことも承知しております。

さて、私の地元山鹿市では、1市4町合併により新山鹿市が誕生し、10 年がたちました。この間、豊かな自然や歴史、伝統に育まれた地域の特性を生かし、新生山鹿市の一体化を図りつつ、誰もが住みやすく、美しく、すばらしい町を目指してまちづくりが進められてきました。

一方、5年前、旧鹿本郡の植木町が熊本市と合併した結果、それまで消防やごみ焼却施設、最終処分場など広域事務組合で運営されていたものが、山鹿市単独での運営になったことで、財政にも大きく影響するのではないか、熊本市に取り残されるのではないかと心配する声も、依然として多く聞かれます。

経済面は、基幹産業である農業や林業が安定的に自立経営できる体制づくりや、にぎわいのある商店街づくり、雇用拡大により若い世代を定住させるために、企業誘致や起業支援が推進されています。

観光面では、八千代座や山鹿灯籠、さくら湯などの山鹿温泉、平山温泉、菊鹿温泉、全国一の装飾古墳群を含む数多くの古墳や鞠智城などの古代遺跡、さらには、岳間渓谷、矢谷渓谷など、歴史、文化や自然を初めとした豊富な観光資源の魅力を県内外に繰り返しPRし、観光客誘致促進の取り組みが続けられております。また、農業体験型観光など、各産業が連携した新たな誘客の試みも図られております。

しかしながら、こうした懸命の努力にもかかわらず、山鹿市の人口は減少を続けており、現在の人口は、10 年前に比べ、人数で約 4,800 人、率にして 8.3%も減少しました。

先般公表された国のまち・ひと・しごと創生総合戦略では、地方は、人口減少を契機に、人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させるといった負のスパイラルに陥るリスクが高いとされており、何とか流動人口をふやすか、もしくは人口減少に歯どめをかけなければなりません。

私は、これまで、山鹿市を初めとする県北地域の活性化は、熊本市との横軸、縦軸双方の強いつながりが必要であると訴え続けてまいりました。観光振興や定住促進による人口減少対策

など、県北地域の振興のためには、100万の人口と数多くの企業、さまざまな都市機能が集積し、県内外からの集客力も大きい熊本都市圏との連携強化が不可欠であり、そのためには、まず両地域間のアクセス強化による移動時間の短縮が最も重要であります。

それが実現されれば、国内外から熊本市を訪れる数多くの観光客が、山鹿を初め、近隣地域の観光資源を訪れる機会が増加し、交流が促進され、各種産業の振興につながるであります。また、熊本都市圏への通勤が容易になることから、若い世代の定住が促進されることも期待されます。

現在、山鹿市と熊本都市圏をつなぐインフラは道路しかありません。幹線道路である国道3号は、常に渋滞が激しく、普通でも移動に相当の時間を要しますが、雨の日などは特にひどく、私が一度熊本駅近くのホテルでの朝の会合に出席するために路線バスを利用した際は、国道3号の渋滞で2時間50分もかかり、これでは到底通勤はできないと痛感したものです。

しかし、山鹿―熊本間の唯一の公共交通機関である路線バスを運行する九州産交バスは、平成30年から、朝夕の時間帯以外は全便植木乗りかえに変更することを発表されており、バス利用者は一層の不便を強いられることとなります。

一方、熊本市から山鹿の温泉にマイカーで来られる方々からも、山鹿に来るのは楽しみだけど、実際の距離は20キロ前後なのに、国道3号の植木周辺が渋滞して時間がかかるので、帰りはわざわざ遠回りして帰るという声をしばしば耳にいたします。

12月議会において、県と熊本市が、熊本都市圏都市交通マスタープランを策定作業中と伺いましたが、熊本都市圏の交通は周辺市町村に大きな影響を及ぼすことから、私も非常に関心を持っております。

そこで、熊本都市圏都市交通マスタープランにおける国道3号の位置づけについて、加えて、現在事業中の山鹿と熊本をつなぐ国道3号植木バイパスの整備促進について、県はどのようにかかわっていかれるのか、土木部長にお尋ねいたします。

〔土木部長猿渡慶一君登壇〕

◎土木部長(猿渡慶一君) 国道3号につきましては、平成13年度に策定しました都市交通マスタープランにおいて、熊本都市圏構造を支える骨格幹線道路として位置づけております。

現在、新たな都市交通マスタープランの策定に向けて、平成24年度に実施しましたパーソナルトリップ調査の分析結果を踏まえ、道路整備や公共交通網の整備に関する施策の検討を行っております。

新たなマスタープランにおいても、これまでのマスタープランと同様に、国道3号は、都市圏内外の交通円滑化のために、重要な路線になるものと考えております。

次に、国道3号植木バイパスの整備促進についてですが、これまで県は、早期整備を国に働きかけるとともに、平成23年度には、バイパスと現道の国道3号を連絡する県道を新たに整備するなど、植木バイパスの整備促進に取り組んでまいりました。

熊本市の政令市移行後、市内で実施される国直轄事業については、事業費の一部を市が負担するなど、熊本市が国と連携して整備促進に取り組まれているところでございます。

県としましては、国道3号植木バイパスが、県北地域と熊本都市圏のアクセス強化に資するものであり、熊本市のみならず、山鹿市初め周辺の市や町にとっても重要な道路であるとの認識は変わっておりません。

このことから、総合的な渋滞対策の実施を目的に組織しております熊本県渋滞対策協議会など、さまざまな機会を捉え、熊本市や周辺の市、町と連携して、県として植木バイパスの早期整備を求めてまいります。

〔淵上陽一君登壇〕

◆（淵上陽一君）今回、高木県議の気持ちがよくわかりました。一緒に頑張っていきたいというふうに思っております。何とか早急に植木バイパスの整備について御努力をいただきますよう、よろしく願いいたします。